

海外語学研修（台湾）

報告書

医療科学部 放射線技術学科 1 回生 内田 有紀

8 月 20 日から 26 日までの 7 日間、元培科技大学にて行われたサマースクールに参加させていただきました。異文化交流や語学力の向上はもちろんですが、医療機関の見学では普通の渡航では決して見ることの出来ない部分を見せていただき貴重な経験となりました。そんな実の詰まった 7 日間のうち一部をご報告したいと思います。



まず、今回の渡航において大きな課題であり、私に大きな変化を与えてくれたと感じたものは語学でした。台湾は私にとって初めて訪れた外国であり、自分の英語力で会話が成り立つのかということが大きな不安でした。初めのうちは自信が無かった英語も相手に理解してもらうことができたとなると、意思疎通できることが嬉しくなり、日を増すごとに積極的にコミュニケーションをとれるようになりました。また中国語においても、台湾の学生さんに日常会話を教えてもらい、実際に使って会話してみることで言葉が通じる楽しさを実感することができました。勉強のためだけに言語を学ぶのではなく、学んだ言語を使って海外の人と会話し言葉が通じる面白さに気づけたのは大きな収穫だったと思います。

また、異文化交流においては台湾の文化に触れることで、台湾独自の文化に驚いたり、関心することも数多くありました。台湾らしさを感じる以外にも、台湾の学生さんが「台湾は日本が大好き」と教えてくれたのですが、本当にその通りで日本のお菓子が日本語表記のままで売られていたり、観光地でも台湾の人々が日本語で話しかけてくれたりと、台湾にいながら日本を感じる機会も多くありました。そういった機会に出会うたびに台湾の人々の親日ぶりがとても嬉しく、こうした国を超える交友関係が長く続けばいいなと思いました。



そして、最も印象的だったのは台湾の人々の優しさ、温かさでした。台湾の学生さんはこの 7 日間、毎日朝から寝るまで私たちをサポートしてくれました。中国語の授業では分かりにくい箇所を丁寧に教えてくれ

たり、買い物に行くときには手伝ってくれたり、とても細かく気を遣ってくれました。ホスト側だからという理由もあるのかもしれませんが、それ以上に彼らの優しさに支えられた1週間でした。教えてもらった中国語の中で最もよく使った言葉が” 謝謝” だったように思います。

観光や異文化交流、病院見学など楽しい時間ばかりでしたが何より楽しかったのは台湾の学生さんと過ごした時間でした。毎晩、トランプ等ゲームをして遊んでいたのですがその時間が1番楽しかったです。1週間でここまで打ち解け合い、仲良くなれたことはこの研修に参加させていただいたからこそできたことだと思います。これからもこの機会を得た” 縁” を大切にしていきたいと思います。最後になりましたが、今回の研修に携わっていただいた全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。



海外語学研修（台湾）

報告書

医療科学部 放射線技術学科 1 回生 関 奈津美

8月20日から8月26日までの七日間、台湾で行われた海外語学研修に参加しました。台湾で見たもの聞いたこと体験したことは私にとってすごく良い刺激になりました。



私たちは研修中ずっと台湾の学生さんたちと共に生活をしました。私は学生さんたちと会ったとき、緊張していてなかなか会話できませんでした。初めての環境と日本語が通じない国での生活にすごく不安でいっぱいでした。しかし、台湾の学生さんは、簡単な日本語とわかりやすい英語で話しかけてくれました。そのおかげで私は話すことができ、少し安心しました。そして、この貴重な体験を精一杯楽しもうと思いました。

私は研修で様々なことをしました。病院の見学や観光、中国語の授業などを受けました。病院見学では2つの病院に行き、それぞれの放射線科を見学しました。一般撮影や放射線治療の機械を見ました。本当に使われている機械や働いている技師さんの姿を見るのは初めてでした。患者さんの治療計画を作ったり、最新機器を使いこなして検査する技師の姿に、私は非常に感銘を受けました。診療放射線技師という職業の特殊性と必要性を強く感じました。診療放射線技師の仕事は、やりがいのある仕事だと思いました。

観光ではみんなで九份や龍山寺に行きました。九份は山の上にあり、とても景色がきれいな場所でした。細い路地にたくさんの建物が並んだ感じはまさに「千と千尋の神隠し」でした。そこでは「阿柑姨芋圓」を食べました。これはタロイモという芋を小麦粉にまぜて団子にしたスイーツです。かき氷と一緒にもちもちした団子を食べるとすごくおいしかったです。龍山寺はたくさんの神様がまつられているお寺でした。日本では考えられない神様の数にびっくりしました。学業や恋愛、健康など様々な神様がいてそれぞれにお祈りをしてきました。そして、そこではおみくじも引きました。台湾にも日本と同じようなおみくじがあるんだと知りました。

中国語の授業では挨拶や簡単な単語を中国語で学びました。また、「ぞうさん」の中国語版も歌いました。中国語の発音はとても難しく苦戦していました。しかし、台湾の学生さんたちが分かりやすく教えてくれて発音できるようになり、日常でも使えるようになりました。また、私も日本語を教えました。日本語の挨拶や単語を教えてあげるとすぐに日本語を使って話しかけてくれました。この中国語の授業は、お互いに学び合える楽しい授業でした。

このほかにも夜市に行ったり、コマの体験をしたり、この一週間でたくさんの経験をしました。すべてのことがとても楽しく思い出に残るものでした。私がこれだけ楽しい研修ができたのは、台湾の学生さんがいつもそばにいたからだと思います。それぞれ英語や中国語や日本語を使って会話し、冗談を言ったり、ふざけあったりしました。そして観光でも授業でもみんなと楽しさを分かち合いました。一人で行く旅行では味わえない楽しさでした。



この研修を通じて友達ができたこと、語学が学べたことを非常にうれしく思います。私の片言な英語でも最後まで聞いてくれた台湾の学生さんたちにはとても感謝しています。また、このような貴重な体験をさせてくれた先生方や家族に感謝しています。この経験を生かしてこれからの生活を送っていきたいと思います。

海外語学研修（台湾）

報告書

医療科学部 放射線技術学科 2 回生 鵜飼 亜咲美

7 月 20 日から 7 月 26 日の 7 日間、台湾で行われた海外語学研修に参加しましたので報告します。

活動内容

1. 中国語及び伝統文化講座

講座は全 5 回あり、中国語講座が 4 回、伝統文化講座が 1 回だった。

中国語講座では、まず、拼音や四声など基礎となる発音を教わった。日本語にはない音やアクセントがあり、非常に苦戦した。その後、自己紹介や挨拶などの簡単な文章を使い実際にコミュニケーションを取る練習をした。

歓送会では、学んだことを踏まえて中国語を交えたスピーチを行なった。

また、童謡や台湾原住民族のバンブーダンスも体験した。

伝統文化講座では、ディアボロと呼ばれる中国の伝統的な独楽のパフォーマンス観賞と体験をした。

2. 病院見学

台北の臺安醫院と新竹の臺大病気新竹分院を見学した。

台湾の医療事情やそれぞれの病院の紹介を受け、特に放射線科の見学をした。実際の現場また異国の医療のあり方を知ることができ、とても良い経験になった。

ダメージジーンズやカラーコンタクトを着用した医師、放射線技師を両院で複数人見かけたことは驚いた。

3. 観光

九份や中山記念堂、龍山寺、台北 101、Big City、士林夜市などに行った。

なかでも龍山寺で引いたおみくじが印象的だった。ポエと呼ばれる三日月型の赤い木を使い、おみくじを引いて良いか等を神様に問うのだから、これが中々



▲中国語講座



▲九份

▼龍山寺のポエとクジ



骨が折れる。ストレートで引ける確率はわずか 1%ほど。そのため、日本のおみくじよりも結果を信じたくなってしまった。

4. 料理

私には料理の説明をできそうにないので、ひたすらに写真を貼る。全てのものに言えるのは非常好吃 再来一碗！ということである。



▲小籠包 ▼食井精緻盒餐(有名店)のお弁当



▲豆花

▼マンゴーかき氷



▲中華レストラン

▼胡椒餅



▲美味しい麺

▼ある日の昼食



ある日の朝食



▲ピーナッツアイスクレープ



▲タロイモ団子

5. 交流

台湾の学生さんは皆とても気さくですぐに打ち解けることができた。

1日のスケジュールが終わった後も毎夜パーティを開きゲームやお喋りを楽しんだ。



会話は、初めは英語がメインだったが、互いに教えあった日本語や中国語が日増しに登場するようになり、中々面白いことになっていった。

台湾の学生さんには日本語や日本の音楽、漫画に関心のある方も多く、共通の話題で盛り上がることも多かった。しかし、私たちが台湾についてほとんど無知であったため、台湾の音楽などの話題を振られると、知らない、という応えしかできないのが少し申し訳なかった。

歓送会では、それぞれダンスや歌のパフォーマンスをした。また、ユニフォームの交換や私たちの名前をモチーフにした手作りストラップのプレゼントも受けた。

最終日は涙の別れとなった。7日間でも泣くほどに別れを惜しめるようになるんだな、と驚くとともにいかに有意義な時間を過ごしたかを改めて感じた。

書き尽くせないほどの貴重な経験と書き表せないほどの多くの感動を得た怒涛の7日間のだった。このような貴重な経験をさせて頂いたことに心から感謝します。



▲大好きな人たちと

海外語学研修（台湾）

報告書

医療科学部 放射線技術学科 2 回生 水津 拓海

今回の語学研修では主に英語能力の向上と異文化交流、歴史、生活を学びたいと思い参加した。地理的に近いとはいえ、台湾について知っている事はあまりに少なかったため、今回の研修は大変勉強になった。英語については、中国人や台湾人は英語が達者なイメージを持っていたがかなり個人差があり、それなりに喋れる人もいれば喋れない人もいた。少なくとも、日本人よりは喋れるという印象を持ったが、殆どの台湾人が日常英語を話せると思っていたので驚いた。また、初めて中国系の方と英語で喋って気になった点は発音である。やはり日本訛りがあるように台湾訛りもあり、初めはやや聞き取りづらかった。また、Allergy や Alcohol、Vietnam の発音は日本語のそれと近似していた点は驚いた。これは人によるが、中にはアメリカ英語ではなくイギリス英語を話す人も何人かいた。完全なイギリス英語ではないが、perhaps や bloody などを普通に使用しており発音もアメリカ英語のそれとは違った。今回、英語を第2言語とする民族同士で会話し、自分の英語力の確認と新たな発見、国による英語学習の違いを感じることができ、非常に有意義な体験であった。歴史についてはボランティアの学生さんから多くの話を聞いた。台湾という国の成り立ち自体かなり面白い。共産党との紛争に敗北した蒋介石率いる国民党が台湾にて執政を行っていた、位しか私たち日本人は習わなかった。中国における共産党のように、とはいかないまでも、かつての国民党に対する好感度は悪くないのではと思っていたが、実際はちがった。かつて台湾は日本による統治を受けており、日本の教育を受けた有識者が多数いた。日本が敗戦により台湾から撤退した後、国民党が中国から敗走してきたが、その際有識者の反乱と思想の制御を目的に多くの台湾人が虐殺された歴史があったことを聞いた。このような歴史はあったが、国民党なしには今の台湾はありえないから正直複雑な気分だ、というのが現地の若者の歴史に対する声であった。また、寺院や国父記念像などの歴史的建築物はまさに台湾らしく、日本のそれとは全く違う文化に感動した。台湾人の生活は日本や欧米のそれと然程代わりはないと感じた。（どちらかというとなら欧米よりだと感じた。）スーパーの食品売り場や雑貨売り場はアメリカのそれに近い作りだった。都市部の住居は高層の建物が多く、作りも日本のものと比べても然程変わりはないように思えた。しかし、台湾中部や南部の一般的な住居は東南アジアのそれに近い印象を受けた。一番特色が強かったのは食事である。中華料理の本場だけに、食べたことのない料理や香辛料、調味料等目新しいものばかりでとても興味深かった。今回の研修は学びたいことや見たいものを全て成せただけでなく、普通に旅行するだけでは体験できることのできないこともできて大変有意義なものだった。

海外語学研修（台湾）

報告書

医療科学部 放射線技術学科 2 回生 高橋 美帆

8 月 20 日～8 月 26 日までの七日間、台湾語学研修に行きました。

私は今まで日本から出たことがなく、海外の文化に触れたことがありませんでした。この外語学研修に参加したいと思った理由は、以前から興味があり、自分の視野を広げるための良い機会だと思ったからです。また、台湾にはおいしい食べ物が多くあると知り、それを食べてみたいと思いました。



〈台湾に到着！〉

台湾の空港に着いて、研修先の台湾の学生さんが温かく迎えてくれました。そこでは、どちらも緊張して話すことが出来ませんでした。なんとか、私たちの学んだ英語の知識とボディーランゲージで伝えようと頑張りました。また、台湾の学生さんはとても親切でした。空港に着いてバスで移動する時、私たちの荷物を出し入れしてくれました。学校に着いた後も、私たちが部屋に案内したり、地元のコンビニに買い物したりと、とても親身になってくださいました。

〈中国語を勉強したとき〉

中国語及び文化課程では、私たちと台湾の学生がペアになって中国語や台湾の文化を学びました。中国語と日本語と英語が飛び交う部屋の中はとても不思議でした。台湾の人はとても親切で明るく、日本の音楽やアニメを知っていたので、私たちはとても快適に過ごすことができました。





＜元培医事技科大学には…＞

元培医事技科大学には学内に資料館があり、私たちが大学で学んでいる放射線に関する医療機器が展示されていました。その多くは昔実際に使用されていたものだそうです。二年生の前期に学んだことがそこにあったので、とても良い刺激になりました。私たちは講師の人の話を熱心に聞き、放射線の歴史を学びました。



＜魅力的な都市！～台湾～＞

台湾の歴史のある寺、ショッピング、病院見学など他にも様々な場所へ行き、学び、台湾の人と交流をしました。あれは中国語では何と言いますか？と何度も質問し、また台湾の学生さんに日本語では何というのですか？と言って積極的にコミュニケーションすることが出来ました。研修中に何度もあった中国語講座で学んだことを試したい、話したいと思うようになり、意欲的に取り組みました。

私は、台湾に行く前はとても不安な気持ちでいっぱいでしたが、台湾の文化を学び、学生と交流することで台湾の研修をより積極的に参加できたと思います。今回の研修で、私が思っていた以上の大切なことを得ました。台湾の人の温かさにとっても感謝しています。

海外語学研修（台湾）

報告書

医療科学部 放射線技術学科 2 回生 寺田 夏穂

私は8月20日から26日まで台湾での語学研修に参加した。現地に着くと元培の学生ボランティアの方々が出迎えてくれた。案内されるままバスに乗り、そのまま元培大学へ。部屋に荷物を置いて晩御飯を頂いた後、台湾の学生さんと大学近くにあるコンビニに向かった。皆フレンドリーでコンビニでも楽しく買い物することが出来た。買い物を終えひとしきり騒いだ後就寝。

2 日目は中国語の授業を受け大学内にある施設の見学、夜にはスーパーで買い物をするというスケジュールであった。

私は1 回の時に中国語の講義を取っていなかったため、中国語を学ぶのはほぼ初めてだった。加えて授業はほとんど英語で行われる。そのため不安を抱えながら授業に臨んだのだが、隣で教えてくれた元培の学生さんがとても丁寧分かりやすく出来るまで教えてくれたため、気付けば抱いていた不安はどこかに行っていた。授業を終え大学内の施設へ。以前使われていた機器等を見せて頂き、非常に興味深いものであった。かなり昔の画像も展示されていて、その時代を経て今の医療へと変遷してきたのかと感ずることが出来た。夜になりスーパーへ。自由時間だと聞かされていたが台湾の学生さんが気に掛けて買い物に付き合ってくれたお陰でスムーズに会計を進めることが出来た。



3 日目は病院見学と観光。病院にはこの日と4 日目とで二度見学する機会があったのだが、どちらの病院でも非常に丁寧に仕事内容等を教えて下さり、終始楽しんで見学することができた。観光では地下鉄で移動。電車の内部構造も日本とはかなり異なったため電車だけでも楽しんでいった。中世記念堂では兵士の交代式を見、龍山寺ではおみくじを引いた。このおみくじの引き方もかなり日本と異なっていて、神様やおみくじに対する考え方

方の違いが垣間見えた。市街では小籠包やマンゴーかき氷等台湾発祥の食べ物を食べた。どれも非常に美味しく、もう一度食べたいと思える物ばかりであった。



4 日目は病院見学の他にディアボロの体験、またデパートでの買い物という日程。ディアボロを始めに見たときは難しそうに思われたが、最後には皆結構できるようになっていた。とても面白くて、出来るならまたやりたい。デパートではまたそれぞれ分かれて晩御飯と買い物を済ませた。もう 4 日目になると日本人だけで固まって、というのも少なくなってきたいてコミュニケーションをとることが出来ていた。



5 日目は 1 日中観光の日であった。まずは千と千尋の神隠しの舞台として有名な九份に行った。景色が非常に美しく、また店員さんもとても良い人が多かった。その後台北 101 へと向かった。日本の企業が幾つもの入っていたり独特なオブジェがあったり、なかなか見ごたえがあった。101 を堪能した後士林夜市へ。大きな夜市ということもあって非常に大きな賑わいを見せていた。ここでも色々台湾ならではの食べ物を食べることも出来たし、皆でゲームをして楽しむことも出来た。



6 日目、最後の中国語の授業だった。童話を歌ったりバンブーダンスをしたりストローでエビを作ったり盛りだくさんで、皆でわいわい騒げてとても面白かった。授業の後は Farewell party の準備に移行した。日本の学生は中国語で、台湾の学生は日本語で一言感想を述べるように伝えられていたためお互い雑談も交えながら教え合った。そうこうしている内に Farewell party の時間に。修了書を頂き皆でご飯を囲んだ。

食事を終わるとそれぞれ用意してきた出し物を披露しパーティーはお開きとなった。しかしその後部屋に集まって明け方まで話をするなど、最後の夜を楽しんだ。



最終日、数人が空港まで着いて来てくれて最後のお別れ。

別れを惜しみながら私たちはゲート入りした。ゲートの中で買い物を済ませて飛行機に搭乗、帰国した。

とても充実した1週間であった。参加してよかったと心から思う。この1週間を通して多くのことを学ぶことが出来た。言葉は違ってもジェスチャーなど様々な方法で伝えられること、またそのようにしてコミュニケーションをとることが出来たときの高揚感。言葉の違いなど些細なもので、国が違っても友達になれること。病院見学や中国語の授業など勉学的な面での学びももちろんあったが、述べたようなこれから生きていく上非常に大切なことを学ぶことが出来た研修であった。参加出来たことをうれしく思う。

海外語学研修（台湾）

報告書

医療科学部 放射線技術学科 2 回生 花垣 和輝

8 月 20 日から 26 日に参加した海外語学研修の活動報告をします。私が今回この海外語学研修に参加したのは以前から海外で文化交流など異文化に触れてみたいと思ったからです。私は 1 年の外国語の選択で中国語をとっていたので今回の台湾の研修でこの経験が生かせると思いました。また、私が学んだ中国語を介して台湾の学生達とコミュニケーションを取りたかったからです。

台湾は治安もよく日本人の観光客も非常に多いため楽しみにしていました。現地の方達も優しく私達を迎え入れてくれたので、楽しい語学研修になりました。

お互いが第二言語で話すという日本ではあまり経験できない貴重な体験をすることができ、また、お互いの国の言葉を教え合うことでさらに仲を深めることが出来ました。



夜にはみんなでゲームをしました。主にみんなでトランプや UNO をしたのですが、人生ゲームによく似たゲームが日本人ひとりでルールもわからないまま参加したので自身のわかる単語を繋ぎながら、周りとのコミュニケーションを取り、進めていったので頭を使い耳や目も使いとても濃い体験ができました。また、サイコロを使うゲームなので数字を中国語でスムーズに言えるようになりました。

台湾は料理が美味しく、日本でも馴染みのある料理から今まで食べたことのないようなものまで様々でしたが、どれも非常に美味しくて気付かない間に胃袋が大きくなっていました。また、台湾の人たちは皆暖かく接してくれ、言葉が伝わらなくてもジェスチャーで伝えようとすれば親身になって聞いてくれて私達を助けてくれました。

台湾のスーパーマーケットに連れて行ってもらいました。日本でも販売している商品も多く見られましたが、全てが大きく海外のスケールに圧倒されました。



文化の違いで最も驚いたのはトイレでした。日本では当たり前にとイレットペーパーがあり、水に流すだけでいいのですが台湾ではとイレットペーパーがないところが多く、洗浄の際に詰まるため横につけられているゴミ箱に捨てなければなりません。今まで日本から出たことがなく紙を流す事が普通だったのですが、トイレ一つにしても異なる文化に触れることで新たな刺激を得られる体験の一つでした。そしてこの機会です更に自身のスキルが上がる事ができたと思います。



最後に貴重な機会を与えていただいた学長をはじめとするサポートしてくださった皆様、引率してくださった田畑先生に感謝いたします。